

# 英米文化学会会報

第 86 号

平成 23 年 2 月 15 日



イエローストーン国立公園。大きなカルデラの中にマグマで温められた膨大な熱水が湧く。間欠泉や、温泉の湖や、温泉の川。大地の力の凄まじさを体感した人達は、しばし無言になる。ここは大陸分水嶺。温泉の一部は太平洋に、一部は大西洋に注ぐ。(撮影：佐野 2006 年 9 月)

## 目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 134 回例会 (3 月開催) のお知らせ
- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 135 回例会 (6 月開催) 発表者募集
- ◆ 大会担当より 英米文化学会第 29 回大会 (9 月開催) 発表者募集
- ◆ 新刊案内 “Eyes on Japan” / 『釣り師と文学』
- ◆ 投稿規定改訂 『英米文化』投稿規程および執筆要項
- ◆ 財務担当より お知らせ
- ◆ 事務局より 学会暦・会員消息

## ◆ 英米文化学会 第 134 回例会のお知らせ

(例会担当理事：田嶋倫雄)

日時：平成 23 年 3 月 12 日(土)午後 3 時 00 分～5 時 40 分

午後 2 時 30 分受付開始

場所：日本大学歯学部 3 号館 二階 第 5・6 講堂 <地図は 4 ページに掲載>

(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町 他 下車)

総会：日本大学歯学部 3 号館 二階 第 5 講堂 (例会に続けて総会を開催します)

時：午後 5 時 40 分～6 時 00 分

懇親会：日大歯学部3号館 地下ラウンジ、例会会場と同じ建物の地下です  
会費：2,000円 午後6時00分～8時30分 懇親会のみ参加も歓迎いたします。

## 開会挨拶

英米文化学会会長 小野 昌 (城西大学) (3:00-)

## 研究発表

### 1. 留学を希望する学生に英語を国際語として教えるべきか (3:00-3:40)

発表 飯村文香 (ヨーク大学大学院修了)

司会 金子智香 (茨城大学)

### 2. 読解授業でのライティング活動の計画とその効果について (3:40-4:10)

発表 大東真理 (拓殖大学)

司会 松谷明美 (高千穂大学)

————— 小休止(4:10-4:20) —————

### 3. 『レント』 ---‘gentrification’がもたらす都市空間の変質 (4:20-5:00)

発表 越智敏之 (千葉工業大学)

司会 内田 均 (横浜美術大学)

### 4. 中学校英語検定教科書から見たビートルズ歌詞の難易度 (5:00-5:30)

発表 谷 憲治 (武蔵大学)

司会 大橋由紀子 (ヤマザキ学園大学)

## 閉会挨拶

英米文化学会副会長 曾村充利 (法政大学) (5:30-)

## 研究発表抄録

### 1. 留学を希望する学生に英語を国際語として教えるべきか

発表 飯村文香 (ヨーク大学大学院修了)

日本の英語教育において、English as a foreign language (EFL) (外国語としての英語)ではなく、English as an international language (EIL) (国際語としての英語)として教えることの必要性が高まっている。専門家の間では、EIL の概念と共に English as a lingua franca (ELF) (共通語としての英語) という概念も普及している。一方で、留学を希望する日本人学生はアメリカやイギリスを主に選ぶ傾向にある。本発表では、2009年に日本人留学生に対して行った調査で、彼らの国際的な環境での英語のコミュニケーションの難しさは、英米の英語を教わったことではなく、英語を使って他国の人と話す機会の少なさが原因であることを、明らかにする。そして、留学生が英語の多岐にわたる能力を高めることを求めているという視点から、英語教育において、EFL、EILそしてELFの概念の柔軟性に関して考察する。

## 2. 読解授業でのライティング活動の計画とその効果について

発表 大東真理 (拓殖大学)

今日、大学の英語授業に対して、より「実用的」な視点に立った指導を求めることは、あらゆる専門領域において広く見られる傾向であると言えるだろう。例えば、講読の授業においても、テキストを受動的に読むだけでなく、その内容について論評したり、テキストから得た知識を活用したりすることを通して、能動的な読み方を習得することを求められる。本研究では、学習者が能動的な「読み」をどのように行ったかを調べる目的で、読解の授業に英語によるライティングをタスクとして組み入れた。タスクを行うためには、読み取った英語の情報を加工してアウトプットしなければならない。その過程で、学生が英語力と自律学習についてどのように考えるようになったかを調査した。対象となった学生からは質問紙によってデータを収集し、その結果を踏まえて授業内でタスクを活用する際の課題を明らかにする。

## 3. 『レント』 --- ‘gentrification’ がもたらす都市空間の変質

発表 越智敏之 (千葉工業大学)

‘gentrification’ (都心部の再開発) は当初、白人の郊外への逃走が進む中、郊外部に形成されつつあった一律的で抑圧的な文化風土から排除された異分子たち (働く女性・ゲイ・アーティスト等) の受け皿として機能し、多様性を受容する開放的なコミュニティを都心部に作り出してきた。『レント』 (ジョナサン・ラーソン作) の舞台となるイーストヴィリッジもそうしたコミュニティの一つだったが、90年代以降、‘gentrification’ はグローバル化と結びつき、逆に多様性を排除する形で都心部のトポスを変えていく。NYでは、1994年以降市長を務めたジュリアーニの強力な指導のもと ‘gentrification’ が進められるが、『レント』が初演された1996年はまさしくその渦中にあり、作品の中でも ‘gentrification’ が原因でそのトポスが破壊されそうになる。この作品は多様な若者たちの激しい生を歌い上げるが、同時に圧倒的な現実の中で失われていく都心部のトポスへの愛着をも表現している。

## 4. 中学校英語検定教科書から見たビートルズ歌詞の難易度

発表 谷 憲治 (武蔵大学)

日本においては、初期英語教育にビートルズの歌が導入されて久しいが、その教育的効果に関しての学術的研究成果は極めて乏しい。

英国文化を代表する存在としてのビートルズの歌は世界中で認知されているが、その知名度に反比例し学術的な視点からのビートルズ研究における成果は限定的であると言える。

したがってこの発表では、学術的な視点から、特にビートルズの歌詞における使用語彙ならびに句動詞やイディオムに着目し、中学校英語検定教科書の内容と比較しカバー率を算出することによって、その難易度を考察する。手順としては、ビートルズの全楽曲歌詞語彙サブコーパスと中学校英語検定教科書3学年分の語彙サブコーパスをそれぞれ作成し、それぞれのサブコーパスから句動詞やイディオムを抽出したうえで全体のカバー率を算出する。また、アルバム別や年代別のビートルズ歌詞の難易度変化も同時に考える。

\* 例会会場（日本大学歯学部3号館） / 懇親会会場（同館地下）



**JR・地下鉄：** JR 中央線・総武線 御茶ノ水駅  
 都営地下鉄 新宿線 小川町駅 営団地下鉄 千代田線 新御茶ノ水駅  
 営団地下鉄 丸ノ内線 御茶ノ水駅 営団地下鉄 丸ノ内線 淡路町駅

◆ 英米文化学会第 135 回例会（平成 23 年 6 月開催）発表者募集  
 （例会担当理事：田嶋倫雄）

上記の例会（6月11日）の発表者を募集いたします。発表時間は30分もしくは40分です。発表の希望者は、氏名と所属（勤務先）、研究発表題名と抄録をメールで、以下のメールアドレスにお送り下さい。

締切日は4月11日、例会会場は日本大学歯学部（御茶ノ水）の予定です。  
 発表申し込み先：例会担当田嶋倫雄 MichioTajima(at)SES-online.jp です。

◆英米文化学会第29回大会（9月開催）のお知らせと発表者募集  
（大会担当理事：松谷明美）

大会の日時と会場は以下のとおりです。

平成23年9月10日（土）大東文化大学（詳細は次号掲載）

上記大会の発表者を募集いたします。ふるってお申し込みを御願い致します。発表時間は30分です。発表希望の方は、ご氏名・所属（勤務先）を明記の上、研究発表題名と「抄録」（400字）を、ご面倒ですが念のため以下の2つのアドレスにメールでお送りください。件名には「英米文化学会大会発表希望」とお書きください。申し込み締め切りは4月10日です。

発表申込み先：松谷明美 AkemiMatsuya(at)SES-online.jp  
事務局：大東俊一 ShunichiDaito(at)SES-online.jp

<おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただいております。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

◆ 新刊案内  
（分科会担当理事：須田理恵）  
（出版担当理事：君塚淳一）

“Eyes on Japan”発刊に際して

英米文化学会理事の先生方はじめ、諸先生方のお力添えにより、この度、“Eyes on Japan”というタイトルのテキストが完成いたしました。執筆者一同、深く御礼申し上げます。

このテキストは、日本文化をテーマとしつつ、認知言語学の視点から英文法の本質を分かり易く解説しました。読む、書く、聞く、話す、の四技能を伸ばすための練習問題がバランスよく盛り込まれている総合教材です。レベルはTOEIC 300～400点を想定しており、図やイラストが多く、英文法を苦手と考える学生にも楽しく学べるよう工夫されています。先生方のお手元に見本が届けられていると思いますので、ぜひ一度、お手に取られてご覧いただくと幸いです。どうぞ、よろしくお願いたします。

認知言語学に基づくテキスト研究分科会代表 森 千佳子

“Eyes on Japan” 金星堂 税込価格¥1,890 ISBN978-4-7647-3918-5  
監修：小野昌 執筆者：金子智香、佐藤順子、松下晴彦、松谷明美、森千佳子

曾村充利著『釣り師と文学』（聖公会出版、2010年） xviii + 624 pp.

わが国では釣り人のバイブルとして知られる『釣魚大全』の作者アイザック・ウォルトンの本格的な研究書がようやく出版された。「ようやく」というのは、これまで日本の英文学では、ウォルトン研究は釣り文学の側面が強調されるのみで、英国国教会の聖職者4人と俗人ひとり扱った『伝記集』全体に焦点が当たること皆無に等しかったからである。

『釣魚大全』の邦訳は数知れず。だが、単行本として日本語で読める伝記集は、同じ著者による『ジョン・ダン博士の生涯』（こびあん書房、1993年）があるのみ。神学者リチャード・フッカーや詩人で田舎牧師のジョージ・ハーバートの伝記も邦訳が待たれる。翻訳はさておき、今回、研究対象として、釣り文学と伝記集の両面が取り上げられ、ウォルトン本来の姿が現れる形となった。本書は現在のところ、これまでの欠落を補う唯一の研究書であろう。

著者は17世紀イギリス形而上派の詩人ジョン・ダンに魅せられ、詩人にして高位聖職者のダン伝を著したウォルトンへと興味の対象を移し、ウォルトンと当時の知的サロン、2代目フォークランド子爵ルーシアス・ケアリーの庇護を受け宗教的寛容を旨とするグレイト・テュー・サークルとの人脈的な関連および思想的な影響を吟味する。本書によると、サークルの名前の由来となったオクスフォード近郊にある子爵の屋敷で、同じ主義主張を抱く諸家、思想家ウィリアム・チリングワースや政治家で歴史家のクラレンドン伯エドワード・ハイドなど、かれらの思想・信条が、とりもなおさずイギリス保守主義の淵源であるという。

内乱前後のイギリス文学を論じる際、政治・宗教・科学など様々な分野に目配せが必要であることは言うまでもないが、著者は歴史、特に聖域たる教会史に足を踏み入れ、その脈絡の中で王党派の旗色鮮明なウォルトンの国教会擁護の姿勢を明らかにする。その結果、一見したところ、牧歌的な河畔で瞑想にふける釣りの指南役が、様々な文学ジャンルを駆使しながらサークルの中心となる考え方のひとつ中道思想を曖昧模糊に隠して見事に創作—文学作品を著したことが判る。

『釣魚大全』は現実逃避の書ではなく、動乱の時代に神学論争を避け「平静たらんと努める」行動の書と解釈される。また、『伝記集』も単に懐古的な聖人伝の様相を廃して、内乱で意気阻喪した国教会の聖職者を励ます現実的な意図やプロパガンダが浮かび上がる。

スペースがないので、いやかえってあればますます、地道な研究成果を踏まえた労作をまえにして、その内容を簡潔・的確に叙述するなど私には至難の業であり、最後に一言。日本におけるウォルトン理解の地平が変わった、と。

山根 正弘

◆ 投稿規定 『英米文化』投稿規程および執筆要項（平成22年12月27日改訂）  
（学術担当理事：上野和子）

<投稿規程>

1. 本誌は、英米文化学会の学術誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙一頁に入れること。
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイル並びに略歴（所属学校、機関、研究分野、主要研究テーマ）を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集と校正は、編集・学術委員会にて行う。執筆者の校正は二校までとする。初校は一週間以内、再校は三日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

<執筆要項>

1. 長さ・形式 和文論文は、12000字から16000字の間にまとめる。英文論文も5000語から7000語を目安とし、双方ともA4用紙にフォント12で打ち出す。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名（非常勤の場合は（非）、大学院生の場合は（院）と付記）、論文題名、口頭発表に関わる注記、謝辞等は表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字表記は原則として姓名の順に記す。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文はともに、200語程度英文の abstract をつける。英文については、専門職による native check を受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
  - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
  - b) 外国の人名、地名、書名などは、初出の箇所で日本語の後ろにマル括弧付きで、綴りを併記する。
5. 書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）、*MLA Handbook for Writers of Research Papers*、或いは *Publication Manual of the American Psychological Association* の最新版に遵うものとする。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌5部と抜き刷り50部を進呈する。負担金は一ページにつき2000円である。

◆ 財務担当より お知らせ （財務担当理事：山根正弘）

年会費3年間未納の方々に、E・メールなどで会費納入をお願い致しました。前年度および今年度分の納入がお済みでない方も、併せて納入をお願い申し上げます。納入状況は、財務の山根正弘(MasahiroYamane[at]SES-online.jp)にお問合せ下さい。なお、振替用紙は昨年5月の会報に同封いたしました。ゆうちょ銀行・郵便局に備え付けの振込取扱票もご利用できます。

年会費 : 5,000円

口座番号 : 00160-7-611777

加入者名 : 英米文化学会

## ◆事務局より 学会暦・会員消息

(事務局担当理事：大東俊一)

&lt;平成23年度学会暦&gt;

	第135回例会	第29回大会	第136回例会	第137回例会
発表会場	日本大学歯学部 4号館地下1セ ミナー室	大東文化大学 (東京都)	日本大学歯学部4 号館3階第3講堂	日本大学歯学部3号 館2階第5・6講堂
懇親会会場	日本大学歯学部 3号館地下1階 学生ラウンジ	未定	日本大学歯学部3 号館地下1階学生 ラウンジ	日本大学歯学部3号 館地下1階学生ラウ ンジ
開催日	6月11日	9月10日	11月12日	平成24年 3月10日
発表申込締切	4月11日	4月10日	9月12日	平成24年 1月10日
会報投稿締切	87号=5月6日	88号=7月5日	89号=10月 4日	90号=平成24年 2月5日
会誌『英米文化』 投稿締切	平成23年 10月31日			

\*大会、例会等に関する情報は現時点でのものですので、今後の会報等でご確認願います。

## 会員消息

## 省略

英米文化学会会報 第86号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内  
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp  
年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777  
学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>